

会 議 録

内容承認		公開・非公開 の別	〈開催日〉 令和5年 10月2日（月） 〈時 間〉 14：30～16：30 〈場 所〉 岸和田市立保健センター 3階会議室	〈傍聴人数〉 1名 〈傍聴室〉 岸和田市立 保健センター 3階会議室
吉田会長	泉委員			
承認	承認	公開		

〈名称〉 令和5年度第1回岸和田市環境審議会

〈出席者〉 委員 20名中 16名 （○は出席、×は欠席）

赤坂	井阪	泉	宇口	梅崎	江種	大家	表	川瀬
○	○	○	×	○	○	○	○	×
作田	高原	中	林	原（宗）	原（祐）	藤井	松井	山本
○	○	○	○	○	○	○	○	×
横川	吉田							
×	○							

（事務局）市民環境部：谷口部長

環境保全課：重田課長、北川主幹、亀田主幹、尾垣主幹、前田主任

廃棄物対策課：宅田課長

〈議題〉

1. 開会
2. 議事及び報告事項
 - ①岸和田市地球温暖化対策実行計画（区域施策編）の改定及び岸和田市地球温暖化対策実行計画（事務事業編）の策定について【中間報告】
 - ②脱炭素先行地域計画の応募について
3. その他
4. 閉会

〈会議内容〉

- 開会
- 会議録の確認について、会長が泉委員を指名
- 議事及び報告事項①のうち、岸和田市地球温暖化対策実行計画（区域施策編）の改定について事務局から説明を実施
- 意見表明及び質疑応答を実施（以下のとおり）

【会長】

岸和田市の温室効果ガス排出量の動向として、新たに対策を講じない現状^{すうせい}趨勢ケースだと、2030年度の排出量は基準年度である2013年度比で約28%削減と、国や岸和田市が目標に掲げる46%削減には到底及ばない。徹底的に対策を講じる脱炭素ケースでは、理論上53.6%削減が可能ということである。

温室効果ガス排出量を削減するため、次世代自動車¹や再生可能エネルギーの導入、国の温暖化対策計画に準じた取組を、岸和田市の実情を踏まえながら行っていくということであるが、皆さま、ご意見等はあるか。

【委員】

産業革命の頃から、1950年の時点ですでに世界の平均気温は0.4度程度上がっており、現在は約1.1度平均気温が上昇している。平均気温が上昇していく中、1.5度までの上昇に食い止めようというのが、2050年カーボンニュートラル²の目標につながっている。

岸和田市のここ200年間の気温上昇量のデータを見せていただくのが大事かと思うので、検討いただきたい。世界全体だと現在約1.1度の上昇であるが、大阪府だと2度程度上昇している。岸和田市の場合は何程度上昇しているのかをみんなの共通認識としてもらったほうがよいと思う。

第3章及び第4章で、目標や対策・施策についての書き方が、岸和田らしくないと感じる。これまで基本的にバックカasting³の考え方をもって、岸和田が向かうべき未来があり、その未来のために何をしていくべきかというメッセージを出すというのが岸和田市の地球温暖化対策実行計画の特色であった。そのようなスタイルに書き換えていくことが大事だと思う。

【委員】

資料1の19ページのエコカー⁴登録台数について、登録台数が伸び悩んでいるのはインフラ（充電設備）の整備が追い付いていないからではないか。

私はEV⁵を所有しているが、先日市内のショッピングセンターに行った際に、20台分の充電設備があるが、充電スペースにEVでない普通の車が停められており、充電が叶わなかった。

先日、各地で充電設備の老朽化が進んでいるが採算難で更新できず撤去する事業者が少なくないという新聞記事を読んだ。充電設備を設置してもなかなか充電をしてもらえないようである。一方で、東京都内に150kWの急速充電設備を含め、1,000台の充電設備を整備予定という記事も見かけた。岸和田では市内にどのように充電設備を設置していく予定なのか。また、和歌山県九度山町の道の駅には、無料で使える充電設備があった。

やはりインフラ整備を進めなければ、EVも普及しないので、検討いただきたい。

また、EVは販売価格がかなり高く、軽のEVでも300万円ほどする。価格が高いことにより普及していないという点もあるかと思うので、市からEV購入に対して補助金を交付してはどうか。

【事務局】

¹ 次世代自動車…窒素酸化物(NOx)や粒子状物質(PM)等の大気汚染物質の排出が少ない、または全く排出しない、燃費性能が優れているなどの環境にやさしい自動車のことで、燃料電池自動車(FCV)、電気自動車(EV)、天然ガス自動車(NGV)、ハイブリッド自動車(HEV又はHV)、プラグインハイブリッド自動車(PHEV)、クリーンディーゼル自動車(CDV)等がある。

² カーボンニュートラル…二酸化炭素をはじめとする温室効果ガスの「排出量」から、植林、森林管理などによる「吸収量」を差し引いて、合計を実質的にゼロにすること。ゼロカーボンと同義。

³ バックカasting…あるべき未来像・目標とすべき未来像を初めに描き、その未来像を実現するための道筋(行うべき活動やその優先順位など)を、未来から現在にさかのぼって考える思考法のこと。

⁴ エコカー…排出ガス性能及び燃費性能に優れた自動車のことで、次世代自動車も含まれる。

⁵ EV…Electric Vehicle(電気自動車)の略で、バッテリー(蓄電池)に蓄えた電気でモーターを回転させて走る自動車を指し、排出ガスは出ない。

国が示していることでもあるが、岸和田市においても 2030 年までに、一部の車種を除くすべての公用車を EV に変える予定である。現在、公用車所管課が、具体的にどのように導入していくか、どこにどの程度充電設備を設置するか等について情報収集をしているところである。また、EV の消防車両はまだ市場に投入されておらず、EVトラックも販売ではなくメンテナンスリース⁶という形での取扱いと自動車メーカーから聞いている。なお、メンテナンスリースとなっているのは、いつどこでどんな故障が起きるかわからないからとのことで、技術的な部分で確立されていない車種があるという側面があることを把握している。そういったことから、EV だけでなく FCV⁷の導入も視野に入れているが、そちらも実証実験のレベルであるとのことである。総合的に考え、率先して進めていくためにも、公用車については、まずは軽自動車から導入していきたいと考えている。

また、単に EV に変えていくだけではなく、公用車の台数も減らしいく方針である。近距離の公務の移動においては、車ではなく自転車を使用するなど、そもそもの温室効果ガスの排出削減に向けた他の取組も組み合わせて考えたい。

また、充電設備について、どこにどの容量の設備を設置するかなどについて非常に悩んでいるところである。公用車が EV 化されれば、公共施設に充電設備が備わっていくことになる。公用車であれば使用しない夜間に普通充電設備で十分に充電することが可能であるが、市民の方々に、公共施設を利用される際に充電設備を利用してもらおうと思えば、短時間で充電できる急速充電設備が必要となってくる。急速充電設備の設置費用は高いので、その設備投資費用も課題のひとつである。公共施設以外の施設等にも設置いただきたく、協力いただけるかどうかということも今後打診していかねばならない。様々な課題が山積した中ではあるが、急いで取り組んでいかねばならないと認識している。

【委員】

岸和田市民の環境意識は低いように思う。自身が所属する団体内でも、脱炭素というものがどういうものなのかといった声が上がっている。そのような中、労働組合系の団体なので、教宣活動の中で脱炭素の知識を得てもらったり、また職員各自が自宅に太陽光発電機器を設置するなど、少しずつではあるが着実にいい方向には進んでいると思っている。

しかしながら、やはり多くの市民の方が環境問題にあまり興味を示していないと思う。私たち市民が、他の市民の方々に意識啓発をしていかなければならないのではないかと。地球のために取り組んでいかなければならないということを、きちんと理解してもらえるように伝えなければならぬ。まずは市民に知っていただくということを目的として、広報紙を活用してはどうか。例えば、ただ単に環境にやさしいから EV に乗り換えましょうと伝えるのではなく、温暖化が進み、自然災害が多発している等、危機感をもってもらい、温暖化を防ぐために様々なことに取り組んでいく必要があるということを知りやすく伝えていけばよいのではないかと。また、学校などの教育現場で子どもたちにも伝えていき、保護者など大人も巻き込んでいけばよいのではないかと。思う。

【事務局】

市民の方々にご理解いただくにあたっては、惹きつけ、関心をもつていただくことが大事だと考えてい

⁶ メンテナンスリース…故障や破損が発生した際にかかるメンテナンス料金を月額のリース料金に含んだリースのこと。

⁷ FCV…Fuel Cell Vehicle(燃料電池自動車)の略で、燃料電池内で水素と酸素の化学反応によって発電した電気エネルギーで、モーターを回して走る自動車を指し、排出ガスは出ない。

る。また、辟易されないように周知・広報していく工夫が必要である。広報紙への掲載については特集号等の形でできればと思うが、その他にも、例えばテレビ岸和田にご協力いただきながら番組の制作・放送ができないかと検討している。多種多様な手段で啓発活動に努めてまいりたい。

【委員】

令和2年度に区域施策編を策定する際には、市から市民や事業者に向けてメッセージを強く打ち出すということを優先して考えたかと思うので、今回の改定についてもそのあたりを踏まえた改定をお願いしたい。

【委員】

例えば、ごみの分別のためのチラシなどについて、廃棄物対策課でわかりやすいものを用意していただいている。しかしながら、そういったよいものを市民に向けて配布していても、きちんと目を通していない人が多いと思う。市民一人ひとりに知ってもらい、行動してもらわないといけない大切なことほど、市民には届いておらず、理解してもらえていないのではないかと。自分たちのどんな行動が何につながっているのか、日常生活の中で具体的に何をすれば脱炭素に貢献できるのかなどがわからないと、市民が行動していくのは難しいと思う。

また、太陽光発電機器を田んぼなどいろんなところに設置したら、台風等で洪水があった際に、人命に関わる大変な被害になるのではないかと。そういった危険性も踏まえながら、岸和田市を脱炭素していくための取組を考えていかなければならないのではないかと。

【委員】

私は、小学校等で子どもたちに向けて食品ロスや省エネに関する出前授業を行っている。子どもたちは、自分たちの未来がかかっているという認識があるので、熱心に勉強してくれている。しかしながら、反対に大人たちはそういった感覚が鈍っているように思える。その感覚の鈍さについては、一般市民の方々に限らず、行政の方々にも同じではないかと感じる。以前、市に対し環境啓発活動をしたい旨を問い合わせたところ、断られたことがある。

環境問題についてテレビなどで採り上げてもらえれば一番簡単に広めることができると思うが、世間でも地球温暖化などの環境問題に関する悲惨さや深刻さを伝える報道や番組はNHK系列くらいでしか取り扱われていないように思う。環境問題が大変重要な問題であることを知らない人々が多いと思うので、市民に向けた啓発活動を重要視していただきたい。

【事務局】

災害対策と脱炭素をセットで考えていきたいと思う。例えば、自宅に太陽光発電機器を設置することで、災害時の停電に対応でき、不安を解消することができる。そういったメリットなども併せてお伝えしながら、「聴いてもらえるアプローチ」ができればと思う。

テレビ番組やCMで地球温暖化に関するものが放送されており、おそらく市民の方々も目にはしているのだと思うが、身近な市民活動をしている方からのアプローチが加われば、さらに説得力が増して興味をもっていただけるかと思うので、市民活動の中でもぜひ発信をお願いしたい。

【委員】

岸和田は交通の不便さがあると思う。ローズバスが不便で、特に山手では車がないと生活できないという声をよく聞く。例えば、市役所に赴かなくても手続きができたり、地域ごとに拠点を整備して地域内で一定の生活ができるなど、岸和田に住んでいる人が、車を使わなくても他の交通手段を利用して、より便利に、そして温室効果ガスの排出量を抑えた手法で市民生活が営めるような検討が必要ではないか。

【事務局】

ローズバスが不便だという声は以前から上がっており、路線変更で対応したりしているが、それでも利用者が少なく採算がとれないという課題もあり、交通政策として苦勞しているところである。また、既存の南海バスと競合するような運行もできないので、試行錯誤しながら常に検討を進めているところである。

【委員】

車の代わりに自転車を利用することは有効だと思うが、自転車で走るには危険を感じる道も多いので、安心して自転車を利用できるよう、道路整備を進めていただきたい。特に年配者にとっては、側溝の金属製の濡れた溝蓋の上を走るときや段差の昇り降りに転倒のリスクがある。

【事務局】

高齢者について、自転車だけでなく、健康のためにも徒歩での移動を選択していただくのもいいのではないか。ご本人の状況や移動目的に応じて、自転車や徒歩などの移動手段を選択していただければと思う。環境の視点でも健康の視点でも、自転車や徒歩がこれまで以上に重要視されてくるかと思うので、そのあたりをしっかりと考えていきたい。

【委員】

高齢者にとって、徒歩で移動するとなると、目的地までの間に休める場所が必要になる。歩ける環境を整備しなければ、問題は解決できないと思う。

【委員】

岸和田商工会議所での取組を紹介させていただきたい。

ゼロカーボンをめざして、国から大規模な企業に対して、温室効果ガス排出量を減らせという指示が出ている状態である。サプライチェーン⁸も含めて脱炭素せよとのことなので、いずれ下請け事業者等中小企業にも同様の指示が出ると思われる。岸和田市内には大企業の下請け事業者も多いので、そういったことに備えて、所内にゼロカーボンプロジェクトチームを設置して活動をしている。各企業が、現段階でどれくらい温室効果ガスを排出しているのかを確認し、それを削減していく活動をしていこうとしている。また、セミナーを開催し、省エネ診断や省エネ診断に係る補助金についてなどを周知している。少しずつではあるが、脱炭素に向けて進めているところである。

岸和田市ゼロカーボン推進会議は、これから庁内に設置するのか。

⁸ サプライチェーン…製品の原材料・部品の調達から、製造、在庫管理、配送、販売、消費までの全体の一連の流れのこと。供給連鎖ともいう。

【事務局】

令和4年度に設置済みである。

【委員】

EVの普及について、まずは行政から公用車のEV化を図ってはいかがか。しかしながら、先ほど他の委員からもご指摘があったように、充電設備が充実していないのが課題である。

【会長】

事務事業編や脱炭素先行地域計画に係るご意見も出てきたので、事務局から事務事業編の策定についてと、議事及び報告事項②について一括してご説明いただいた後、各委員からご意見賜りたいと思う。

- 議事及び報告事項①のうち、岸和田市地球温暖化対策実行計画（事務事業編）の策定について、議事及び報告事項②について、事務局から説明を実施
- 意見表明及び質疑応答を実施（以下のとおり）

【委員】

「2024年問題」として、トラックやタクシー等の運転手不足が問題となっている。運転手不足問題と関連した脱炭素の取組について、民間企業が行っているものなどの情報はお持ちか。

【事務局】

民間企業の情報は把握していない。

【会長】

生活圏の課題解決も含めて計画策定を進めていきたいと思う。

【委員】

脱炭素先行地域計画について、なかなか厳しいように思うが、採択される見込みや実現性はあるのか。

【事務局】

かなり厳しい状況であると認識している。現在一番頭を悩ませているのが、創エネする場所がないということである。本市では財政健全化の観点から未利用地を売却した経緯があり、いわゆるメガソーラーを設置できる土地がない状況である。洋上発電という手法もあるが、海は船舶の航路になっており困難であり、ため池でのフロート型太陽光発電機器もため池管理者が望んでおらず設置は難しい。

【委員】

資料2の20ページで、公園内の剪定枝葉のバイオマス⁹燃料化を図る旨が謳われているが、単にごみ

⁹ バイオマス…エネルギーや物質に再生が可能な、動植物から生まれた有機性の資源(石油や石炭などの化石資源は除く。)のこと。

として捨ててしまうのではなく、燃料として利活用することは非常によいことだと思う。森林の中には捨てられているバイオマスがたくさんある。森林内で間伐された木々が、搬出に費用がかかるということで放置されている現状がある。行政で何らかの手立てを考えられないものか。放置したままだと、いずれ腐敗し、CO₂ を排出することになるので、手間とお金はかかるが、放置された間伐材を搬出し、利活用することはカーボンニュートラルの重要な取組となる。

岸和田市生物多様性地域戦略 2014 では、農林水産業と生物との関連が記されている。脱炭素にあたっては、CO₂ を排出しないようにすることが大事であるが、吸収や循環の視点も重要なので、農林水産業との連携や生物資源の有効活用、周辺自治体との連携も必要になってくる。

SDGs の目標の中にも、生物多様性を重要視して持続可能な世界をつくろうという趣旨の目標がある。岸和田市には、和泉葛城山があり、そこには天然記念物のブナ林もが存在し、その大きな木々はすなわち炭素の貯蔵庫であるといえる。その下の山地の人工林や若い林は吸収の役割を果たしており、平地にある農地では吸収と分解の両方があるが、それらがつながって最終的には海へ流れ、水産にもつながっていく。

脱炭素していくことと生態系を大切にしていくことは関連が深いので、地球温暖化対策実行計画の中に、生物多様性地域戦略の内容を反映すべきではないか。

【委員】

脱炭素先行地域計画について、パンダやコウノトリなどの希少動物はフラッグシップ¹⁰として活用しやすく、パンダバンブープロジェクトは非常にインパクトがあると思う。一方で、最近各地で竹が開花¹¹しており、紀伊半島ではハチクが開花し枯れているということもあるので、パンダバンブーの存在を押し出しすぎると、竹が枯れたときの対応が気がかりなので、そのあたりは検討したほうがよいのではないか。

【委員】

特定非営利活動法人神於山保全くらぶでは、神於山をフィールドとして様々な活動をしており、「おおさか生物多様性応援宣言」も行っている。

竹の開花について、神於山では開花しているところが1か所あるが、モウソウチクではなく別の2種類の竹なので、全体的にはあまり心配はいらなないかと思う。おそらくパンダバンブープロジェクトにも影響はないかと思われる。

竹の資源循環について、川上・川中・川下を考えたとき、竹を切って運ぶという川上の作業はどうしても人海戦術になるので、人手が必要で、神於山保全くらぶの活動としても悩ましいところである。

【委員】

私は漁師をしているが、森から海へ川を通じて栄養を流すため、木の間伐を行うなど森林整備の活動もしている。また、SDGs の目標の「豊かな海を守ろう」も踏まえて、できる限り漁の時間制限をしてCO₂ の排出抑制や省エネの努力をしている。

【委員】

¹⁰ フラッグシップ…元来は「艦隊の指揮をとる艦」を意味することから、転じて、一般的には、企業や組織が最も重視し、力を入れて展開する商品やサービス等、企業や組織等の「顔」となる最も優れた代表的なものを指す。

¹¹ 竹の開花…竹は数十年から100年に一度の頻度でしか開花しない。特に近年日本各地で開花しているハチクは、開花後に枯死すると考えられている。

2050年までにカーボンニュートラルを達成するという考え方の他方で、生物多様性の枠組みでは、2030年までに生物多様性を回復軌道に乗せるというネイチャーポジティブの考え方があり、カーボンニュートラルとネイチャーポジティブを同時解決していくことが重要である。生き物の力を借りて脱炭素していくバイオマスエネルギーの活用と、ブルーカーボン¹²やグリーンカーボン¹³の活用をしていく手法があるが、岸和田市で施策としてブルーカーボンを進めていくということもあるので、ネイチャーポジティブについての考え方も実行計画に盛り込んだほうがよい。

【会長】

生物多様性については国際的な潮流もあり、生物多様性を活かすというのは岸和田らしさでもあろうかと思うので、ぜひ実行計画に加えていただき、厚みを増していただければと思う。

■ その他

【事務局】

事務局から2点のその他事項案件がある。

まず、岸和田市環境影響評価専門委員会についてご報告する。和泉市のテクノステージにおいて、大栄環境株式会社が建替えを予定している「(仮称)和泉エネルギープラザ」に関して、同社から提出された方法書に対し、令和4年4月18日に環境影響評価専門委員会を開催して答申をいただいたところである。先日、11月に準備書が提出される見込みがあるとの連絡が大阪府からあった。大阪府が準備書の提出を受けたら、前回同様、本市においても縦覧した後に環境影響評価専門委員会に諮問させていただく予定である。期間については未定であるが、令和6年1月末から2月中旬頃の開催になると思われる。本審議会の吉田会長及び松井委員には、環境影響評価専門委員会の委員も務めていただいているが、改めて開催方法等について調整させていただくので、よろしく願います。

続いて、本審議会のペーパーレス化について、皆さま方からご意見を頂戴したく、ご案内させていただく。脱炭素の観点からも、今後の本審議会の運営について、ペーパーレス化を推進してはどうかと考えている。具体的には、日程調整や事前資料配付をすべて電子メールで行うことを検討している。また、審議会開催時に紙媒体ではなくタブレット端末を活用して資料をご覧いただいたり、場合によってはオンライン会議システムを活用してオンラインでご出席いただくということも考えられるかと思う。ご審議に支障のないように慎重に検討する必要があるので、まずは皆さま方のインターネット環境等やペーパーレス化の推進に対するご意見等について、アンケート調査を実施したいと考えているがいかがか。

【会長】

2点目のペーパーレス化について、ご意見等あるか。特段ないようであれば、事務局に調査を進めていただきたいと思う。

【事務局】

では後日アンケート調査を実施するので、よろしく願います。

¹² ブルーカーボン…藻場・浅場等の海洋生態系に取り込まれた炭素のこと。

¹³ グリーンカーボン…陸地にある森林などが吸収・貯留した炭素のこと。

【会長】

本日の議題は以上である。最後に次回の審議会のスケジュール等について、事務局から説明をお願いする。

【事務局】

まずは地球温暖化対策専門部会の開催について部会長である松井委員と調整させていただき、その後の審議会のスケジュールについても吉田会長と調整したいと思う。

【会長】

承知した。

本日の円滑な審議会運営に、皆さま方に感謝申し上げます。

■ 閉会